



(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6月23 日

茨城県知事
大井川 和彦殿

提出者

住 所 茨城県神栖市東和田4番地
氏 名 鹿島石油株式会社
常務取締役 鹿島製油所長
寺本 光司

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0299-97-3104

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称 鹿島石油株式会社 鹿島製油所

事業場の所在地 茨城県神栖市東和田4番地

計画期間 令和5年4月1日 ～ 令和 6年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類 石油精製業

②事業の規模 平成16年7月1日より精製受託会社となり出荷額の提示は出来なくなりました。

③従業員数 492人

④産業廃棄物の一連の
処理の工程 添付資料-1参照。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

平成11年3月、環境対策をより適切に行うため、ISO14001の認証を取得し、廃棄物対策に関する環境目的・目標を掲げ継続的な取り組みを実施してきている。

添付資料－2参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（脱水前）	
	排出量	6813 t	t
	（これまでに実施した取組） 1. 脱水機による脱水を実施。（発生量 5,040ton→504ton）又、発生元の排水処理施設で使用する凝集剤等の適正管理の実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（脱水前）	
	排出量	8,933 t	t
	（今後実施する予定の取組） 1. 脱水機の脱水効率向上の改善を実施していく。又、発生元の排水処理施設で使用する凝集剤等の適正管理の実施の継続		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 当社では、発生した廃棄物は可能な限り再資源化するために、添付資料－3の「廃棄物分別基準」にて教育をすると共に協力会社を含めた全所に配布し分別による再資源化を図っている。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 上記「廃棄物分別基準」を継続し、新規廃棄物発生時等に対応するため、常に見直しを図り、再資源化の推進を行っていく。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	脱水汚泥	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	4,536 t	t
	(これまでに実施した取組) 1. 脱水機による発生汚泥の脱水		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	脱水汚泥	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	5,760 t	t
	(今後実施する予定の取組) 1. 脱水機の脱水効率向上の改善を更に実施していくと共に脱水効率の 良い脱水機の採用の検討を行っていく。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】 6813t					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	がれき 類	廃プラスチック類	金属くず
	全 処 理 委 託 量	2,277t	1,788t	224 t	143t	2t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	1,629t	1,189t	0 t	8t	0t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1,706t	13t	224 t	75t	0t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	50t	610t	0 t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	521t	1,165t	0 t	68t	2t
	(これまでに実施した取組)					
	2011年2月から電子マニフェストを導入し、2012年8月から電子化100%を継続中である。					

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分 を行 っ た 産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分 を行 う 産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	ばいじん	廃アルカリ	ガラス・陶磁器	木くず	
	全処理委託量	293 t	0 t	45 t	41 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	293 t	0 t	45 t	41 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	t
	（これまでに実施した取組）					
	・ 2011年2月から電子マニフェストを導入し、2012年8月から電子化100%を継続中である。					

②計画	【目標】 排 8,933t					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	がれき類	廃プラスチック類	金属くず
	全処理委託量	3,173 t	1,431t	129 t	89t	12t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1,313 t	721t	0 t	0t	0t
	再生利用業者への 処理委託量	2,354 t	16t	129 t	20t	0t
	認定熱回収業者への 処理委託量	219 t	522t	0 t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	600 t	893t	0 t	69t	12t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>2011年2月から電子マニフェストを導入して、2012年8月から100%電子化となり現在も100%を継続中である。今後、新規契約が発生した場合にも電子化への推進を図っていく。</p>					
※事務処理欄						

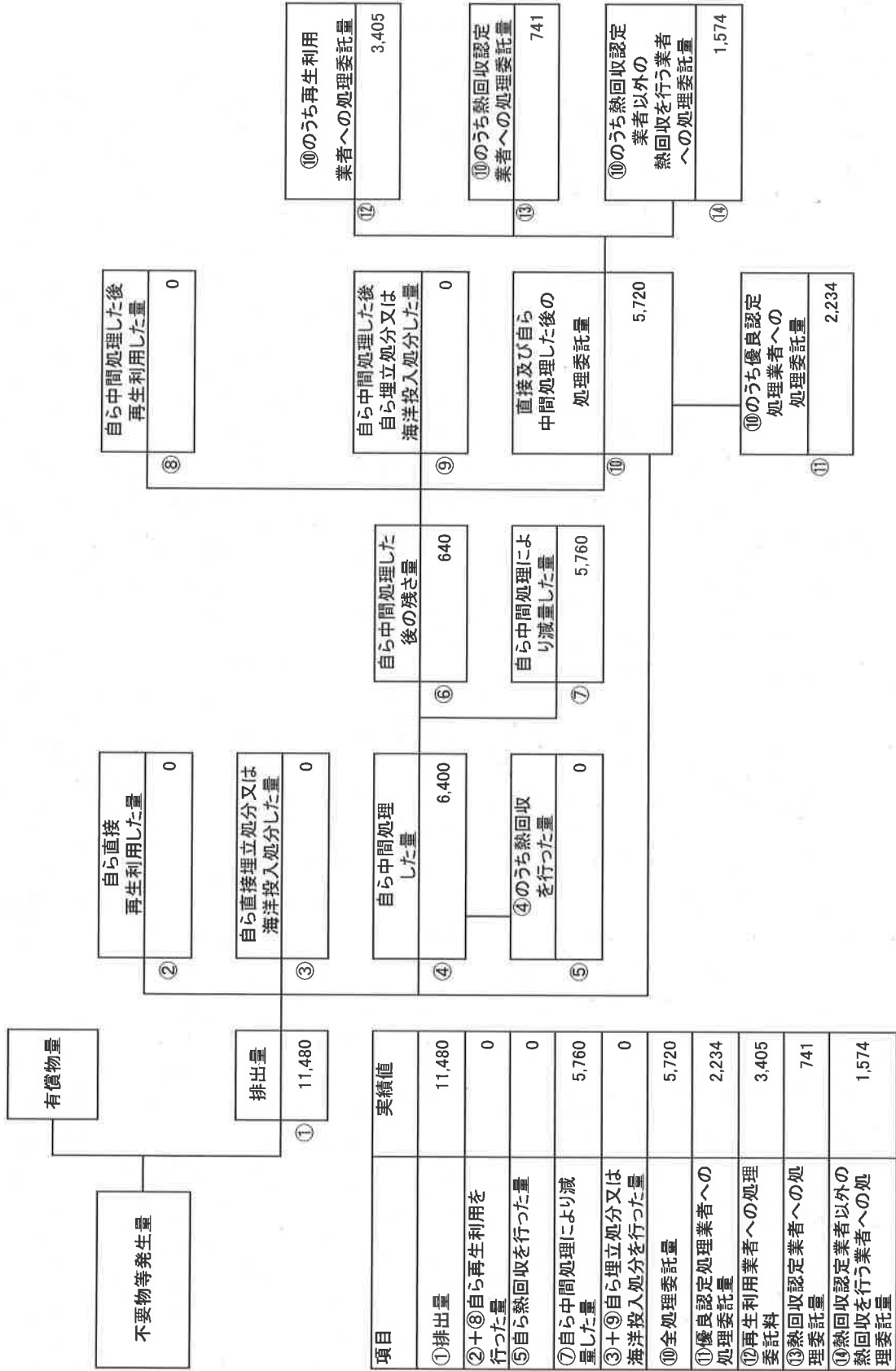
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	ばいじん	廃アルカリ	ガラス・陶磁器	木くず	
	全処理委託量	840 t	0 t	6 t	40 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	200 t	0 t	0 t	0 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	840 t	0 t	6 t	40 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・2011年2月から電子マニフェストを導入して、2012年8月から100%電子化となり現在も100%を継続中である。今後、新規契約が発生した場合にも電子化への推進を図っていく。					
※事務処理欄						

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

計画

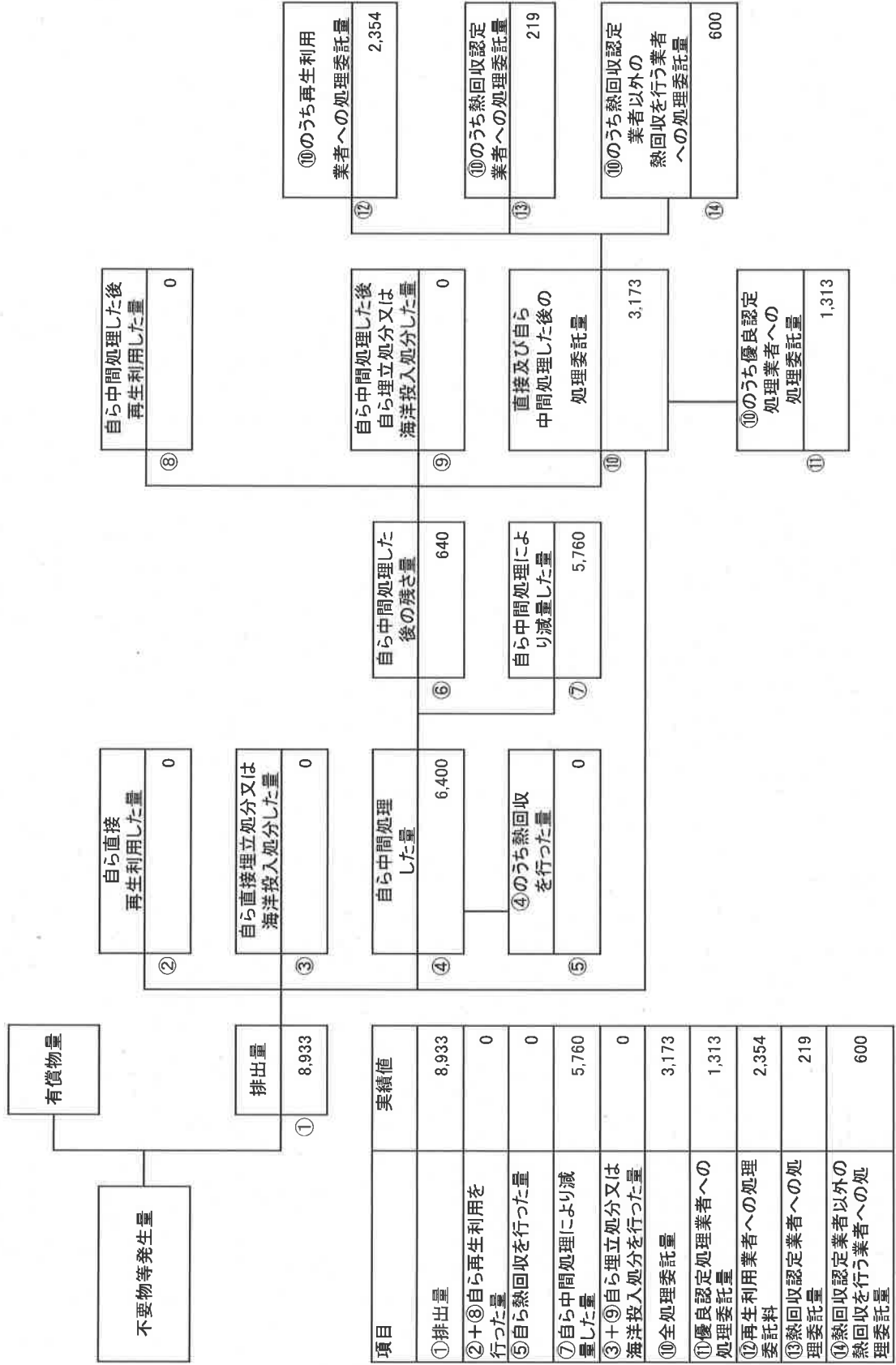
(産業廃棄物の種類：総括表)



項目	実績値
①排出量	11,480
②+③自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	5,760
③+④+⑤+⑦自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	5,720
⑪優良認定処理業者への処理委託量	2,234
⑫再生利用業者への処理委託料	3,405
⑬熱回収認定業者への処理委託量	741
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1,574

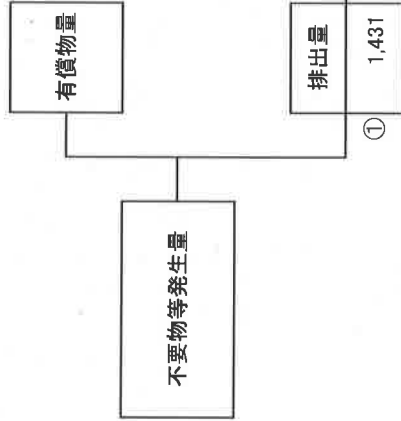
計画

(産業廃棄物の種類：汚泥)

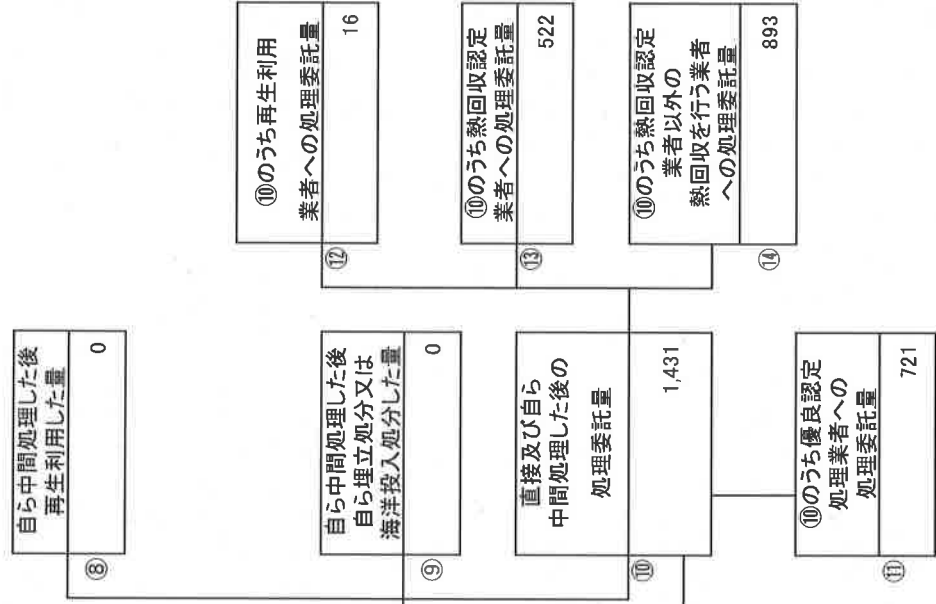


計画

(産業廃棄物の種類：廃油)



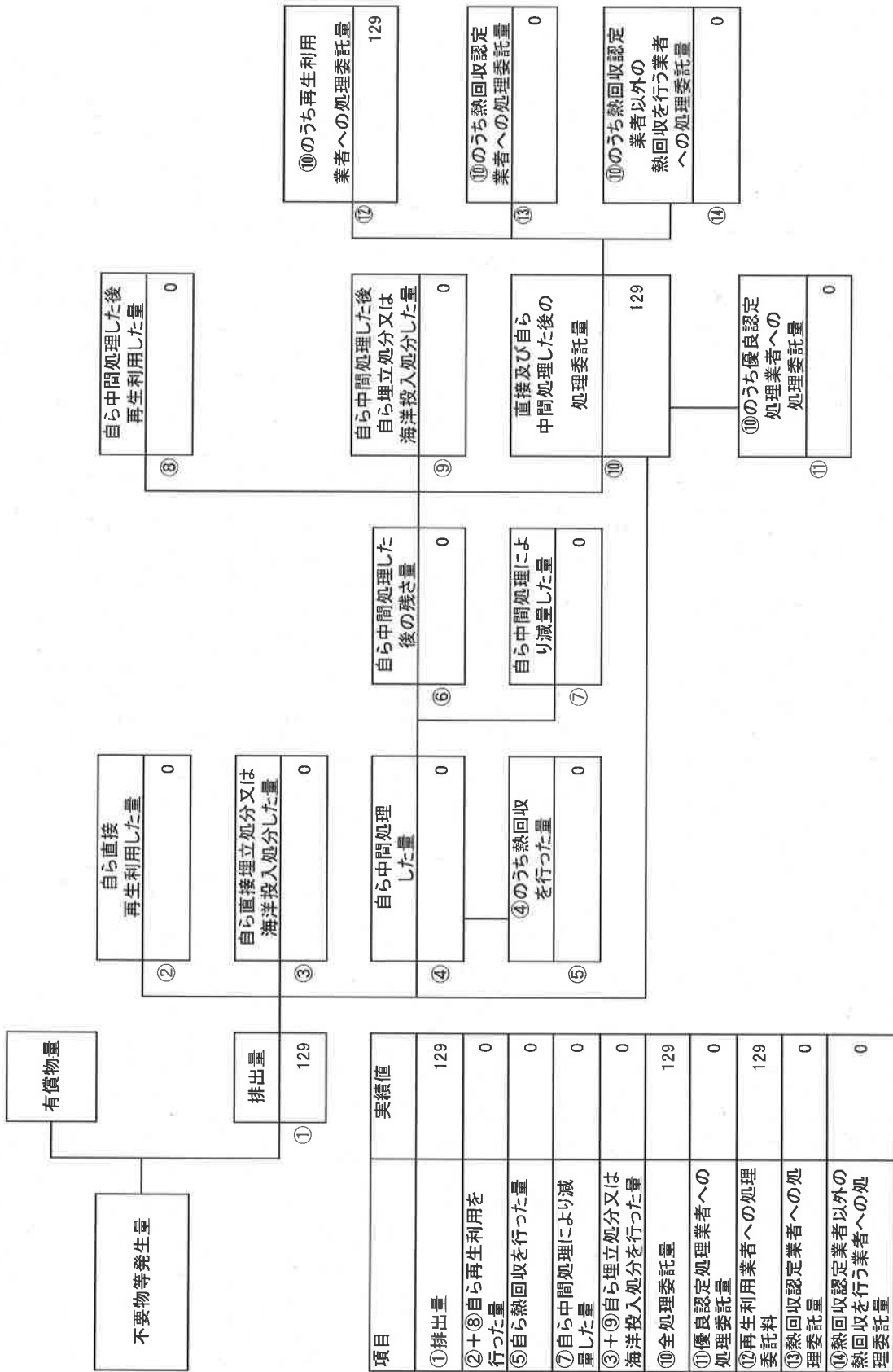
項目	実績値
①排出量	1,431
②+⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	0
③+④自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	1,431
⑪優良認定処理業者への処理委託量	721
⑫再生利用業者への処理委託料	16
⑬熱回収認定業者への処理委託量	522
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	893



⑧自ら中間処理した後再生利用した量	0
⑨自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	0
⑩のうち再生利用業者への処理委託量	16
⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量	522
⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	893

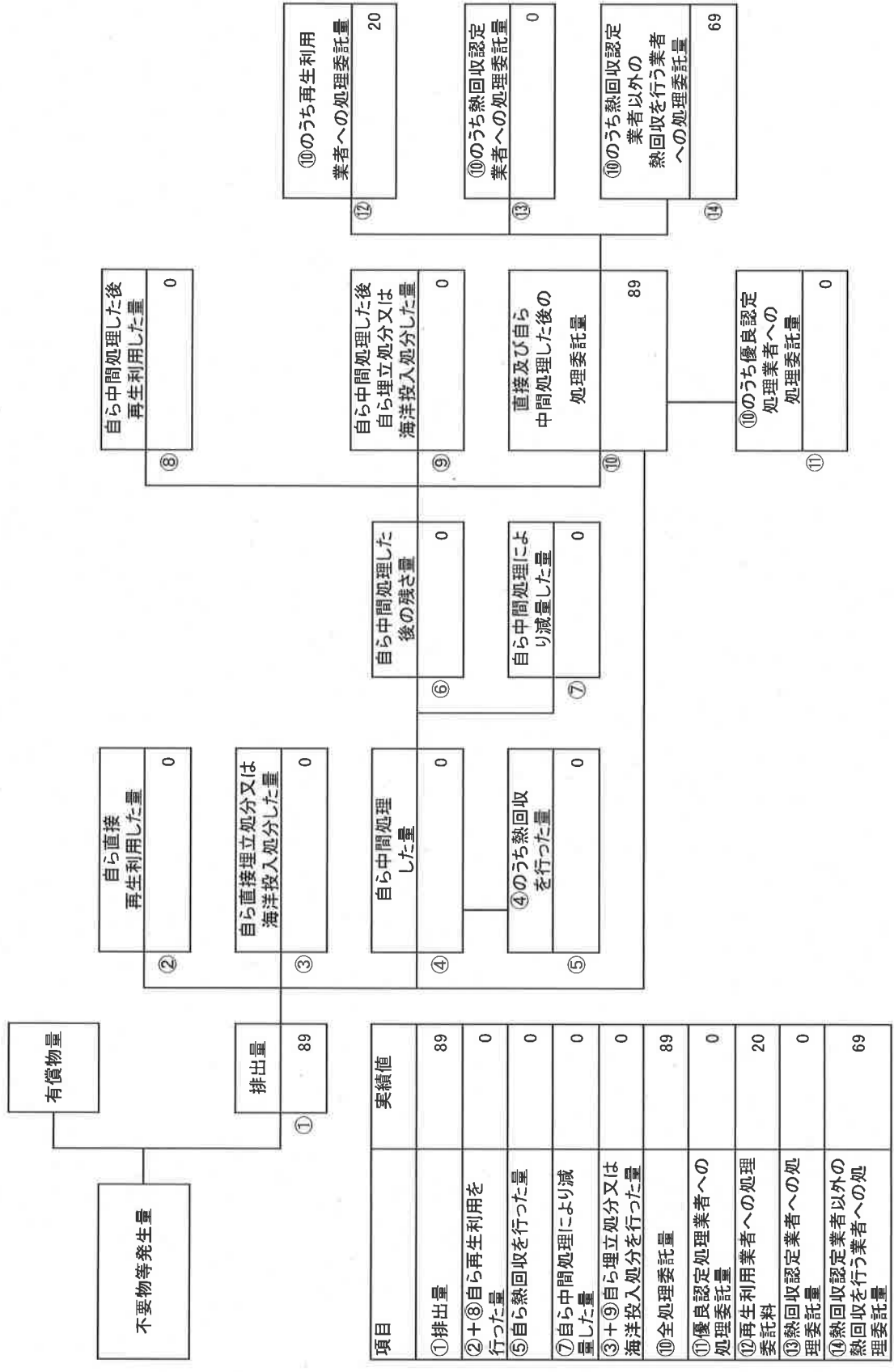
計画

(産業廃棄物の種類：がれき類)



計画

(産業廃棄物の種類：廃プラスチック類)



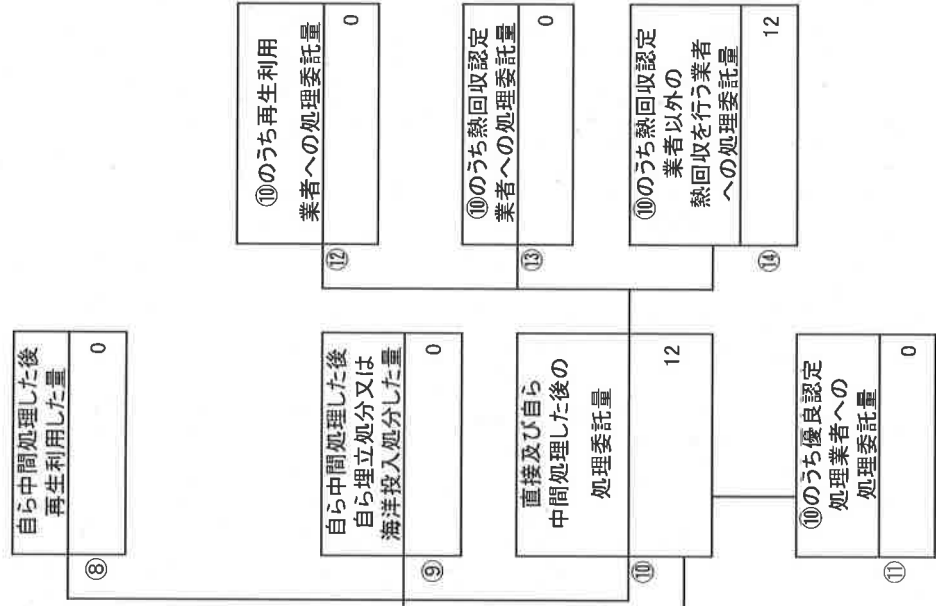
項目	実績値
①排出量	89
②+⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	0
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	89
⑪優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫再生利用業者への処理委託料	20
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	69

計画

(産業廃棄物の種類：金属くず)

不要物等発生量		有償物量	
		①	12
		②	0
		③	0
排出量		④	0
		⑤	0
		⑥	0
		⑦	0
		⑧	0
		⑨	0
		⑩	12
		⑪	0
		⑫	0
		⑬	0
		⑭	12
		⑮	0
		⑯	0
		⑰	0
		⑱	12

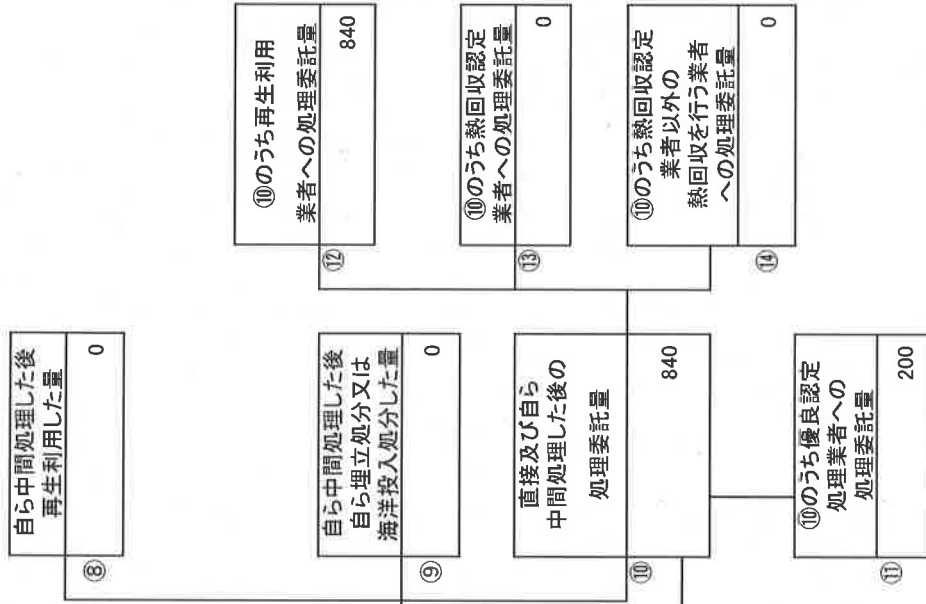
項目	実績値
①排出量	12
②+⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	0
③+④自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	12
⑪優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫再生利用業者への処理委託料	0
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	12



計画

(産業廃棄物の種類：ばいじん)

不要物等発生量		有償物量	
		排出量	① 840
		② 自ら直接再生利用した量	0
		③ 自ら直接埋入処分又は海洋投入処分した量	0
		④ 自ら中間処理した量	0
		⑤ ④のうち熱回収を行った量	0
		⑥ 自ら中間処理した後の残さ量	0
		⑦ 自ら中間処理により減量した量	0
		⑧ ③+④自ら埋入処分又は海洋投入処分を行った量	0
		⑨ ⑧のうち熱回収を行った量	0
		⑩ 全処理委託量	840
		⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	200
		⑫ 再生利用業者への処理委託料	840
		⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0
		⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

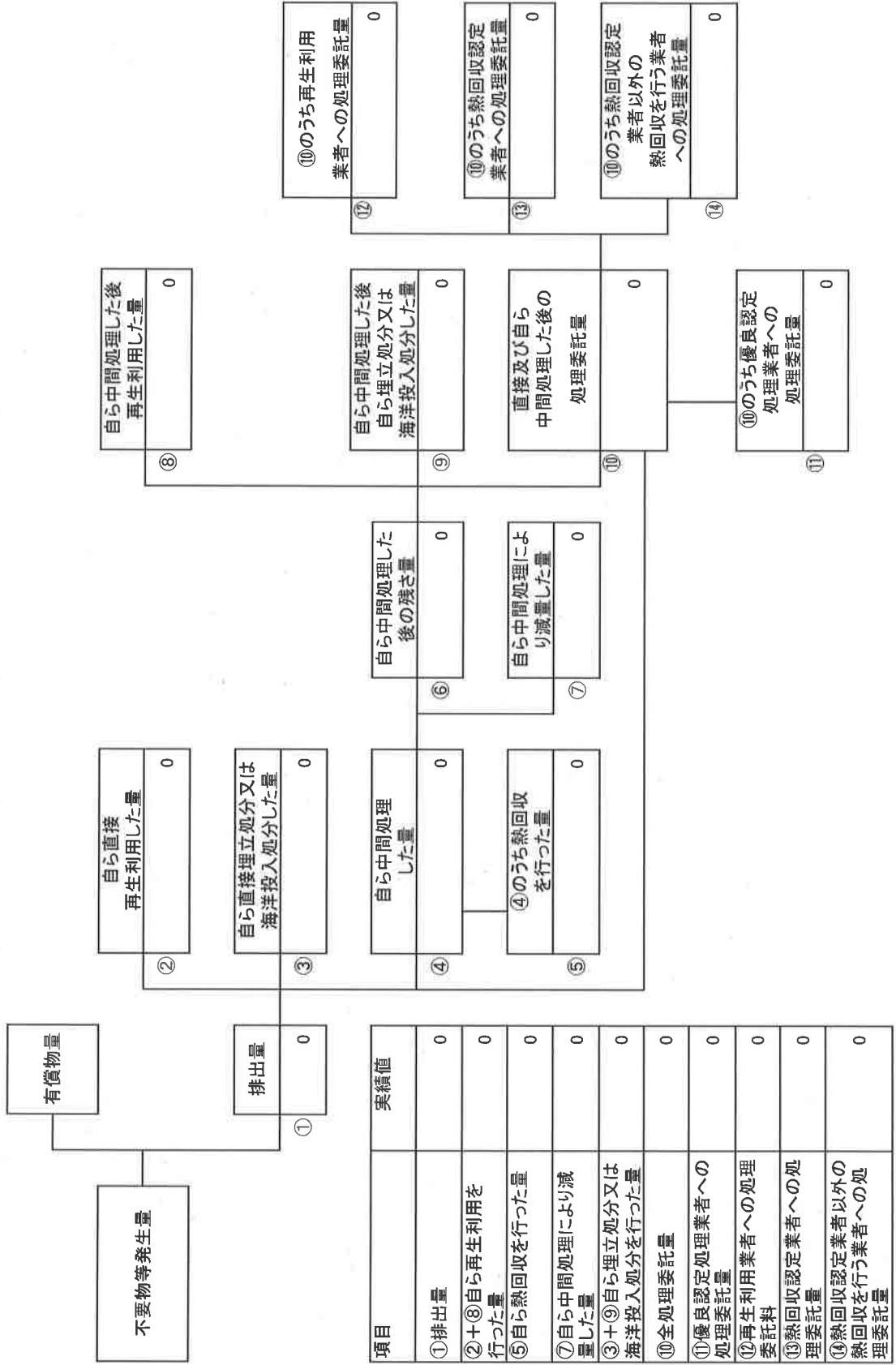


⑩のうち再生利用業者への処理委託量	840
⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量	0
⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	200
---------------------	-----

計画

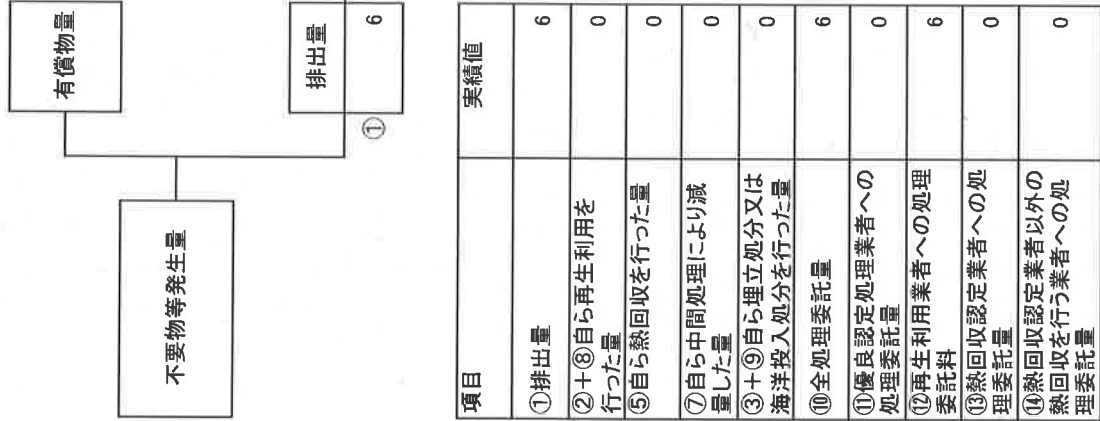
(産業廃棄物の種類：廃アルカリ)



項目	実績値
①排出量	0
②+⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	0
③+⑨自ら埋入処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	0
⑪優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫再生利用業者への処理委託料	0
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

計画

(産業廃棄物の種類：ガラス・陶磁器くず)



項目	実績値
①排出量	6
②+③自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	0
③+④自ら埋入処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	6
⑪優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫再生利用業者への処理委託料	6
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

⑩のうち再生利用業者への処理委託量	6
-------------------	---

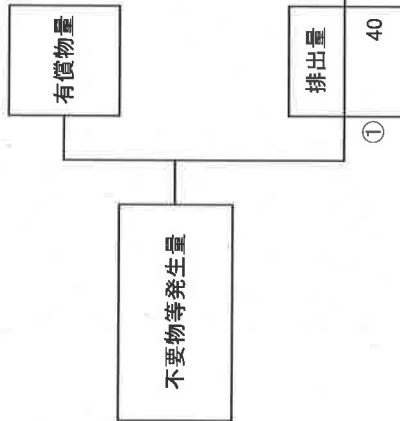
⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量	0
--------------------	---

⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0
-------------------------------	---

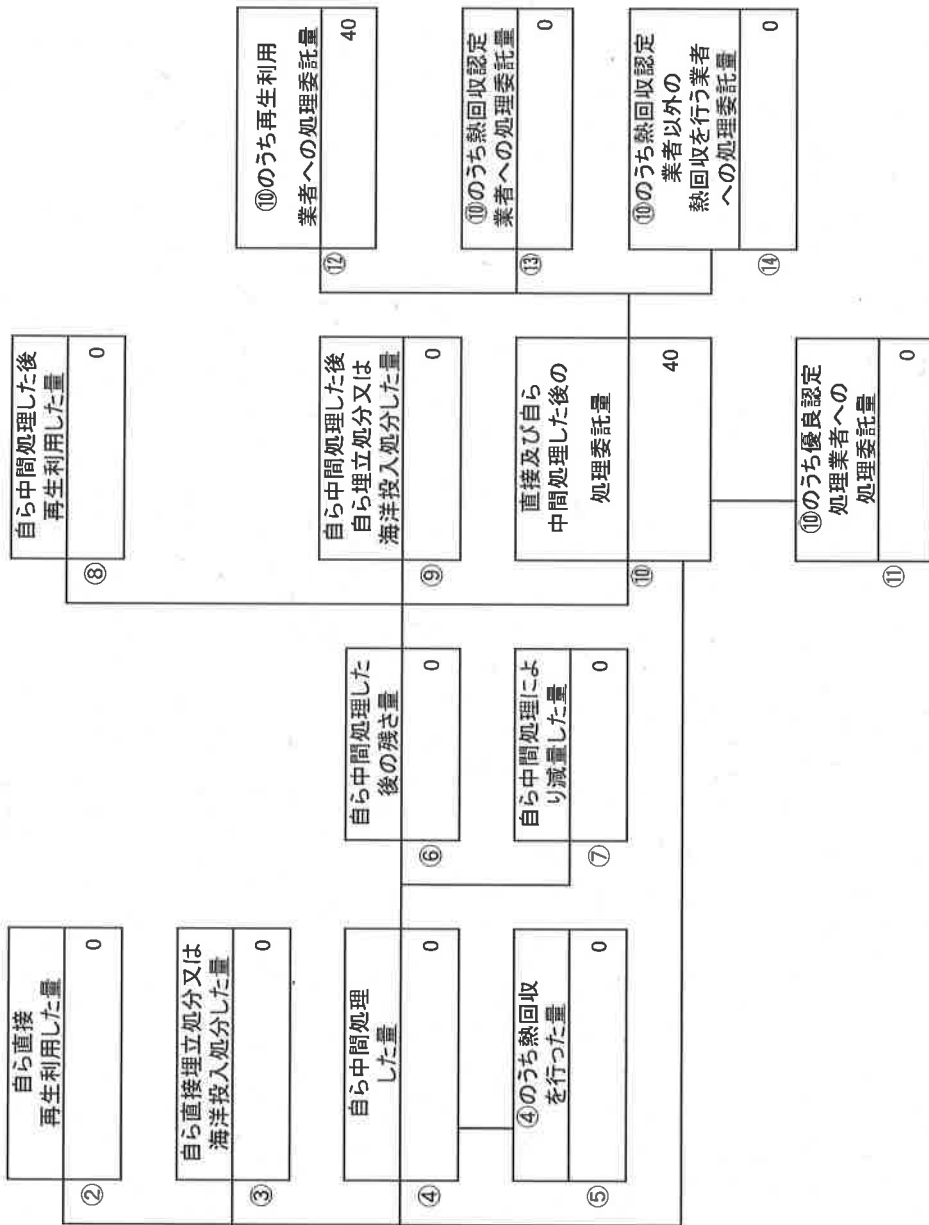
⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	0
---------------------	---

計画

(産業廃棄物の種類：木くず)



項目	実績値
①排出量	40
②+⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	0
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	40
⑪優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫再生利用業者への処理委託料	40
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0



⑩のうち再生利用業者への処理委託量	40
⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量	0
⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	0
---------------------	---

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

(第4面)

【前年度令和4年度実績】

①現状	廃棄物の種類	総計	汚泥	廃油	がれき類	廃プラスチック類	金属くず	ばいじん	廃アルカリ	ガラス・陶磁器くず	木くず
	全処理委託量	4,813	2,277	1,788	224	143	2	293	0	45	41
	優良認定所理業者への処理委託量	2,826	1,629	1,189	0	8	0	0	0	0	0
	再生利用業者への処理委託量	2,397	1,706	13	224	75	0	293	0	45	41
	認定熱回収業者への処理委託量	660	50	610	0	0	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1,756	521	1,165	0	68	2	0	0	0	0

(第5面)

【令和5年度目標】

②計画	廃棄物の種類	総計	汚泥	廃油	がれき類	廃プラスチック類	金属くず	ばいじん	廃アルカリ	ガラス・陶磁器くず	木くず
	全処理委託量	5,720	3,173	1,431	129	89	12	840	0	6	40
	優良認定所理業者への処理委託量	2,234	1,313	721	0	0	0	200	0	0	0
	再生利用業者への処理委託量	3,405	2,354	16	129	20	0	840	0	6	40
	認定熱回収業者への処理委託量	741	219	522	0	0	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1,574	600	893	0	69	12	0	0	0	0

生産工程

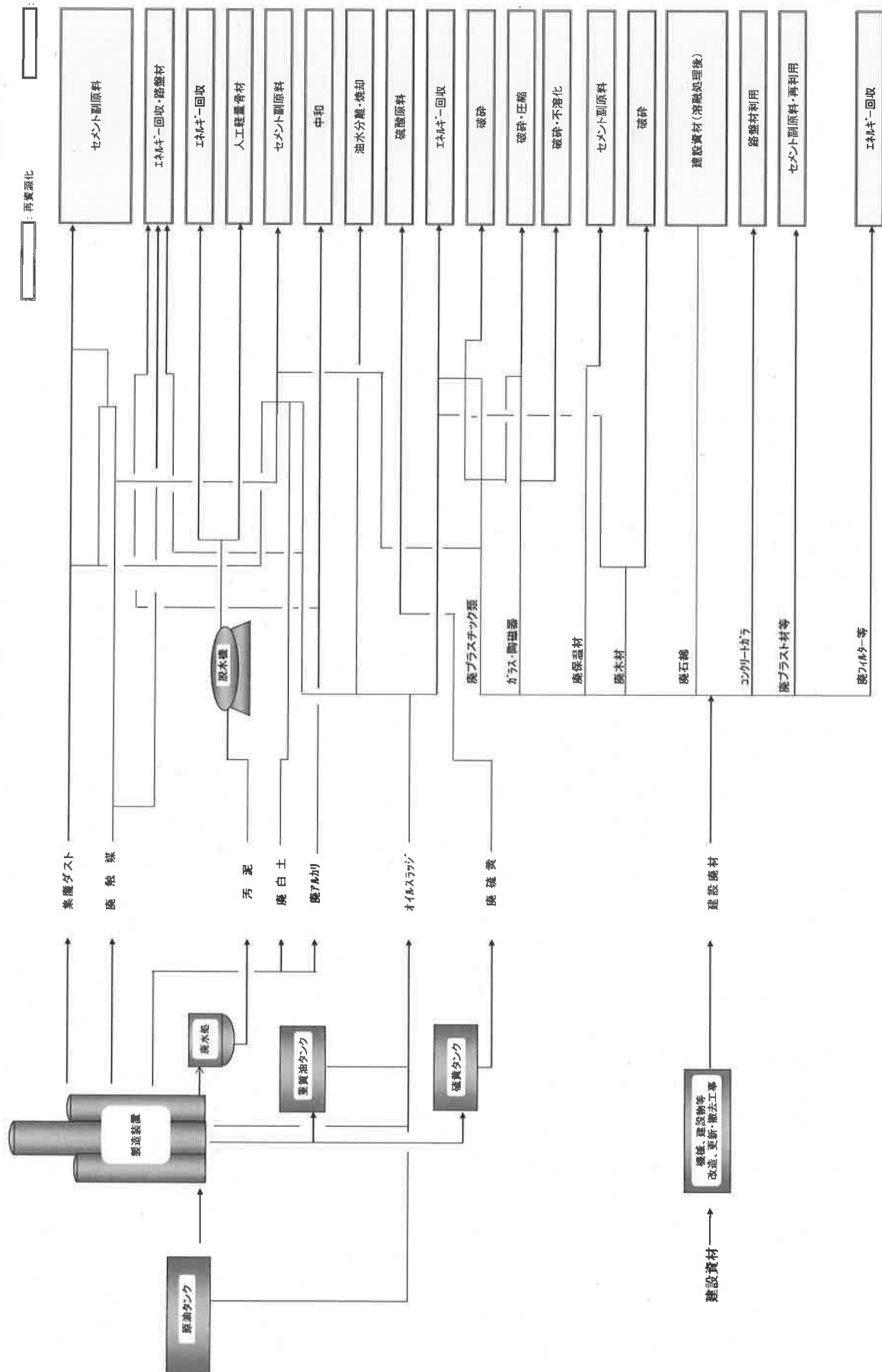
髌骨磨擦物

自社処理

委託先

再資源化

二、埋立処分

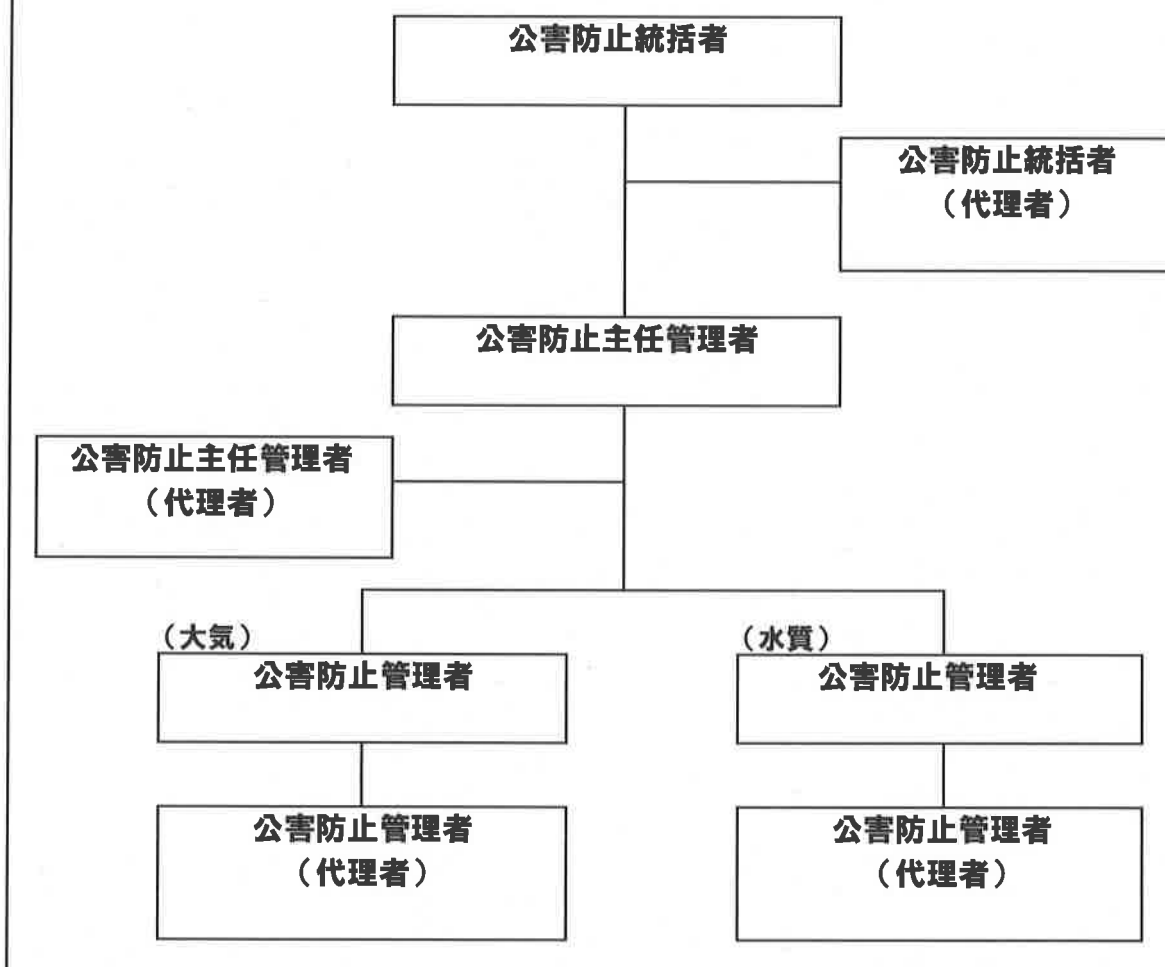


添付資料-1

建設資材

公害防止管理組織等一覽

公害防止管理組織表



廃棄物管理者

産業廃棄物処理責任者

環境安全グループマネージャー

特別管理産業廃棄物管理責任者

環境安全グループ員

標準分別物質棄廃

[illegible]

【特に下記の6点は徹底してください】

- 1)硫化鉄の付着した廃棄物は、自然発火の危険となるので水封等後、環境安全グループの指示を受けること。

- 2) 廃棄物を詰めたビニール袋等には、会社名、品名、事務所名を記入すること。

- 3) 廃棄物を詰めたビニール袋等の大きさは、5L以下またはセメント袋程度の大きさとすること。

- 4) 廃棄物を所外から持ち込まないこと。また、物は廃棄しないこと。

- 5)家電製品、バッテリーは廃棄しないこと。

- 6) 下記の内容は原則として計画段階から、環境安全グループと相談すること。

- ### 飛散性石棉廃棄物が発生する解体工事等の場合

- 所外へ持ち出して処理する場合
廃棄物が多量に発生するなど廃棄物置場へ搬入

⑩ 紙くず (青コンテナ)	⑪ ダンボール (小屋内)	⑫ 廃蛍光灯 (小型ボックス)	⑬ 乾電池 (ドラム缶)	⑭ 廃ガラス (フレココンパッグ)	⑮ 廃プラスチック	⑯ 廃触媒等 (油付着無しの)	⑰ ペットボトル (コブテナ)	⑱ 特定有害産業廃棄物 (第5号保管倉庫)
紙くず ・食品容器のプラスチック類 ・その他可燃の一般廃棄物 ・生活ごみ	ダンボール類 ・サンドプラスチック	廃蛍光灯 ・水銀灯	乾電池	ガラスびん ・理化学用ガラス器具 ・食器・裝飾用ガラス容器 ・板ガラス	廃プラスチック ・廃建設(プラスチック) ・廃カーペット	SDN触媒 ・廃白土 ・イオン交換樹脂 ・溶接アーク ・タンクサビ等のサビ	ペットボトル (リサイクル回収)	・炭石類含有産業廃棄物 ・廃PCB ・廃水銀産業廃棄物 ・その他有害産業廃棄物 (有害燃焼試験品、有害物質含有腐蝕性等)
・ダンボールは、⑩に廃棄すること。 ・食品容器類は内容物を取り除き洗浄して廃棄すること。 ・缶、金属類、空きビン等のガラス類、ウエス等を混入させては廃棄しないこと。 ・積装で輸送出来ない物は全て45L以下の透明のビニール袋に入れること。 ・コンテナが腐坏の場合はコンテナ北側の小屋の中に入れること。	・ビニール、縁取りは取り除き廃棄すること。また、ゴミ等を入れては廃棄しないこと。 ・ダンボール、袋等の内容物は取り除くこと。 ・サトウ芋入袋でビニールの内袋を使用しているものは紙くずに廃棄すること。	・廃蛍光灯は、割らないこと。 ・廃蛍光灯以外の物は絶対にボックス内には入れないこと。	・乾電池以外には絶対にドラム缶へ入れないこと。 ・廃棄の際は、両端を絶縁テープで絶縁すること。 ※セロテープ可	・付着物及び内容物は取り除き、水できれいに洗浄すること。 ・フタ等の金属、プラスチック類は取り外すこと。 ・砕くことはせず廃棄すること。 ・納入りがガラスは、⑯のその他に廃棄すること。 ・板ガラスは透明・安全ガラスに確認すること。 ・陶磁器類は、廃棄しないこと。(その他量増へ)	・砕石、柱石、ビニール等は取り除くこと。	・上記廃棄物を重機に搬入するときは環境安全グループに廃棄物分別廃棄履歴書を出発すること。 ・油が付着した腐蝕性をフレココンパッグにて搬入するときは、油の滲みが無いようにすること。	・内容物を捨てた後、水洗する。 ・キャップは取り外す。 ※キャップは再資源化できる別袋回収する。 ・ラベルを剥がす。 ・透明のビニール袋(70～80L)に入れること。	